

先生・お薦めの一冊

『竜馬がゆく』全7巻 司馬 遼太郎 著 (文春文庫)

～鹿児島中央高校生 必読の一冊～

国語科 上 赤 洋 平 先生

竜馬の魅力は言うまでもないが、西郷ら薩摩武士の生き様が美しい(「ああ!う・・・美しすぎます!」)。作者の司馬遼太郎は大の薩摩びいきで本作品も薩摩侍への愛情が溢れんばかりにつまっている。作中では加治屋町も描かれ、間違い無く鹿児島中央高校生は愛郷心が刺激されるでしょう。長くなるが、島津光久の命を受けた奈良原喜八郎ら薩摩藩士団(討手)が勤王派の有馬新七ら薩摩藩士団(暴発組)を制圧しようとする「寺田屋騒動」を引用します。紙面の都合上かなり省略しましたのでぜひ原典を読んでください。鹿児島中央高校生の中にも流れる薩摩の熱い血がたぎることを保証します。(以下は引用。第三巻 66頁)

薩摩隼人の奇妙さは、いかなる場合でも、自分の男としての名誉をまもる、ということにあった。七百年、日本列島の西南端で心胆を練りつづけてきた、この国の異風である。殺気は、カラリと乾燥している。(略)

首領有馬新七は、より豪気であった。この男は、男としてその名誉のために力のつきるまで奮迅しようとした。大剣を抜き、討手の道島五郎兵衛に斬りかかった。五郎兵衛、数合受けつつ、最期に腰をおとし、上段から、有馬の頭上へ斬りおろした。有馬は刀を立て、鍋もとで受けた。火が、散った。有馬の刀が折れたのである。(無念。)と、有馬新七はおもったか。いや、思うひまもあるまい。瞬間、三十七歳の有馬新七は、異様な行動をとった。この異様さは、われわれが当時に生き、特殊な武士道(おとこどう)を七百年にわたって受け継いできた薩摩侍の身になってみなければ、わからないであろう。(略)

有馬は刀を投げ捨てるや、すばやく相手の道島五郎兵衛の手もとに飛びこみ、力まかせに道島を壁におさえつけた。しかも叫んだ「橋口、橋口、橋口」橋口吉之丞は、爆発組の同志だ。「俺ごと刺せ、オイごと刺せ」有馬のくそ力で壁に押しつけられている道島も、いまは討手とはいえ、親友であり、同志である。しかし、有馬、容赦しない。武士の死は、一人でも敵を殺して最期をかざるのが薩摩武士の「教養」であると信じていた。「心得もした」橋口吉之丞、二十歳。この男も薩摩人なのだ。刀をきらめかせ、「有馬どん、道島どん、ご無礼」とばかり、有馬の背を突きとおし、そのまま団子でも串に刺すように道島五郎兵衛の胸を刺し通し、壁へずぶりと縫いこんだ。

参考文献:『竜馬がゆく』司馬 遼太郎 著 (文藝春秋 刊)

『竜馬がゆく (三)』(文春文庫) 66p～70pより引用

第68回 読書週間

10月27日(月)～11月9日(日)

標語 めくる めぐる 本の世界

行楽の秋、スポーツの秋、食欲の秋、そして読書の秋・・・秋は何かと忙しいシーズンです。一年で一番爽やかな季節に、家で読書なんてもったいない!と考える人も多いかもしれません。しかし、爽やかな秋は頭もすっきり!そのうえ秋は夜長!読書にも最適な季節なのです。旅行記を読んで世界を旅するもよし、スポーツ関連の本で疑似体験をするもよし。読書は皆さんをいろいろな世界へ案内してくれます。読書週間に、すてきな本との出会いがありますように!



新着図書案内

- 『アイネクライネナハトムジーク』伊坂 幸太郎 著 (幻冬舎) *ごく普通の人たちが巻き起こす、奇跡の物語。
 『伝説のエンドークン』まはら 三桃 著 (小学館) *成績優秀、スポーツ万能、容姿端麗・・・そんな人、いる??
 『フォルトウナの瞳』百田 尚樹 著 (新潮社) *大切な人の「死」が視えたとき、あなたならどうしますか?
 『ふたつのしるし』宮下 奈緒 著 (幻冬舎) *本当に大事なことは、自分でみつけるしかない・・・。
 『近所の犬』姫野 カオルコ 著 (幻冬舎) *犬好きの人に読んでほしい小説です!
 『ウィニーザプー』A・A・ミルン 著 (新潮社) *クマのプーさんは、やっぱりかわいいです!
 『宇宙飛行士の知られざる真実』寺門 邦次 著 (実業之日本社) *宇宙飛行士になりたい人必読の書。
 『すごいインド』サンジーヴ・スィンハ 著 (新潮社) *グローバル人材大国・インド。その秘密に迫ります!
 『野外書本』羽根田 治 著 (山と溪谷社) *身の回りに潜む危険・・・、野外活動の前に読んでおきましょう。

1年生図書委員のお薦め!



『氷菓』米澤 穂信 著 (角川書店)

この本は、ある高校の「古典部」が、かつて起こったある事件について謎を解き明かしていくという物語です。「古典部シリーズ」というシリーズものなので、手を出しにくい人もいますが、読み始めたら、先へ先へとページをめくりたくなる本です。ぜひ読んでみてください。高校生が主人公なので、高校時代にこそお薦めしたい一冊です。

『星の王子様』サン＝テグジュペリ 著 (岩波書店 他)

飛行機が墜落し、一人きりになってしまった主人公。誰もいない砂漠で一人の男の子に出会います。「大切なものは目に見えないんだよ」読む度に深く考えさせられる、小さな星の小さな王子様のお話です。

『都会のトム&ソーヤ』はやみね かおる 著 (講談社)

普通の中学生・内人(ないと)は、ある夜、人通りの少ない細道で同級生の創也を見つける。その日から内人と創也の冒険が始まった。下水道を探検したり、TV局でさらわれたり、閉店したデパートに閉じ込められたり・・・。学校一の秀才と呼ばれる創也の推理と、それをおぼあちゃん譲りのサバイバル技術でサポートする内人。笑いあり、謎解きありのワクワク冒険物語です。

9月の統計

4月の貸出総数 547冊 5月の貸出総数 667冊 6月の貸出総数 226冊
 7月の貸出総数 416冊 8月の貸出総数 119冊 9月の貸出総数 394冊

学年	1年								2年								3年							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
貸出数	4	5	1	4	0	6	26	15	20	47	13	21	80	16	14	34	24	11	3	5	34	20	5	6
合計	61冊								225冊								108冊							

編集後記



鹿児島島の短い秋も、そろそろおしまいです。もう11月、毎日が駆け足で過ぎていくように感じられます。上赤先生よりお薦め頂いた『竜馬がゆく』は、日本を近代国家へと導いた多くの人々が育った加治屋町で、多感な高校時代を過ごす私たちの必読図書かもしれません。高い理想に向かって生きた郷土の先人たちに学ぶことは多いはず。丁寧に読みたい一冊です。お忙しい中、原稿をお書き頂いた上赤先生、本当にありがとうございました。